

凜と澄み渡る空気  
心が洗われる空間

## まち全体で おもてなしの心

永平寺町では、5月(今年は5日)には、釈迦誕生にちなんだ「永平寺花まつり」を、8月には「永平寺大燈籠ながし」を開催するなど、永平寺を核としたまちづくりに取り組んでいます。

また、今年から県の「目玉となる観光地づくり推進事業」に採択され、門前街道路の舗装や各店舗デザインの統一、休憩所の設置を進めるなど、国内外からより多くの人が訪れるまちを目指しています。



花まつりの行列

## 770年間変わらない修業生活

大本山永平寺は曹洞宗(そうとうしゅう)の第一道場で、全国各地に1万5千の末寺と800万の檀信徒を持っています。山門には1372年に後醍醐天皇から贈られた「日本曹洞第一道場」の額が掲げられ、また、徳川家康には「日本曹洞の末派は永平寺の家訓を守るべし」との命が出されるなど、長い歴史の中で護られてきました。現在も約200名の雲水が、770年間変わらぬ修業生活を受け継いでいます。

何がすごい？

私が



ブランド大使

曹洞宗大本山

永平寺

Eihei-ji

吉田郡永平寺町志比5-15  
TEL.0776-63-3102(総受処)

です。

曹洞宗の大本山として、全国にその名を知られている「永平寺」さん。あなたの歴史について教えてください。

—あなたはいつどのような人生を送られたのか？

私は、1244年に道元禪師によって開かれた、坐禅修行の道場です。道元禪師は、14歳で出家したのち24歳の時に中国(宋)に渡りました。そして、厳しい修行の末「坐禅」の教えを受け継いで帰国。越前に入り、ここに私は誕生しました。

現在、福井県は中国・浙江省と友好提携を結んでいます。これは、道元禪

水(修行僧)が修行に励んでいます。

また、山門は、修行僧が正式に入門する玄関口であり、早春のまだ雪が残る時期には、入山を希望する雲水の姿が見られます。



邪気の侵入を防ぐという山門の四天王。足元には邪気を象徴した鬼が

—禅の精神とはどのようなものか？

作法の一つひとつに仏法が現れるというのが禅宗の教え。坐禅はもとより、



凍えるような寒さの中でも、素手素足での雑巾がけ。拭き方にも厳密な作法がある

—広大な敷地にいろいろな建物がありますね。

私は、三方を山に、一方に永平寺川を持つ深山幽谷の約10万坪の敷地内に、大小70あまりのお堂を持ちます。その中で、僧堂や法堂など日常の修行に特に欠かすことのできない七つのお堂は七堂伽藍と呼ばれ、現在も多くの雲



著名な画家144名による230枚の花鳥彩色画が天井を彩る「傘松閣」

掃除、食事、入浴、さらには歩き方や呼吸まで、全ての行動が修行とされています。中でも、心身内外の塵を拭い清める掃除は特に大切にされています。永平寺町内でも、無言清掃や校門での一礼などを実践している中学校があるなど、その教えは子どもたちにも受け継がれているんです。

予約をすれば雲水さんが境内を案内してくれたり、実際に坐禅や写経などを体験することもできますので、ぜひ足をお運びください。

—あなたがいいねしました。